

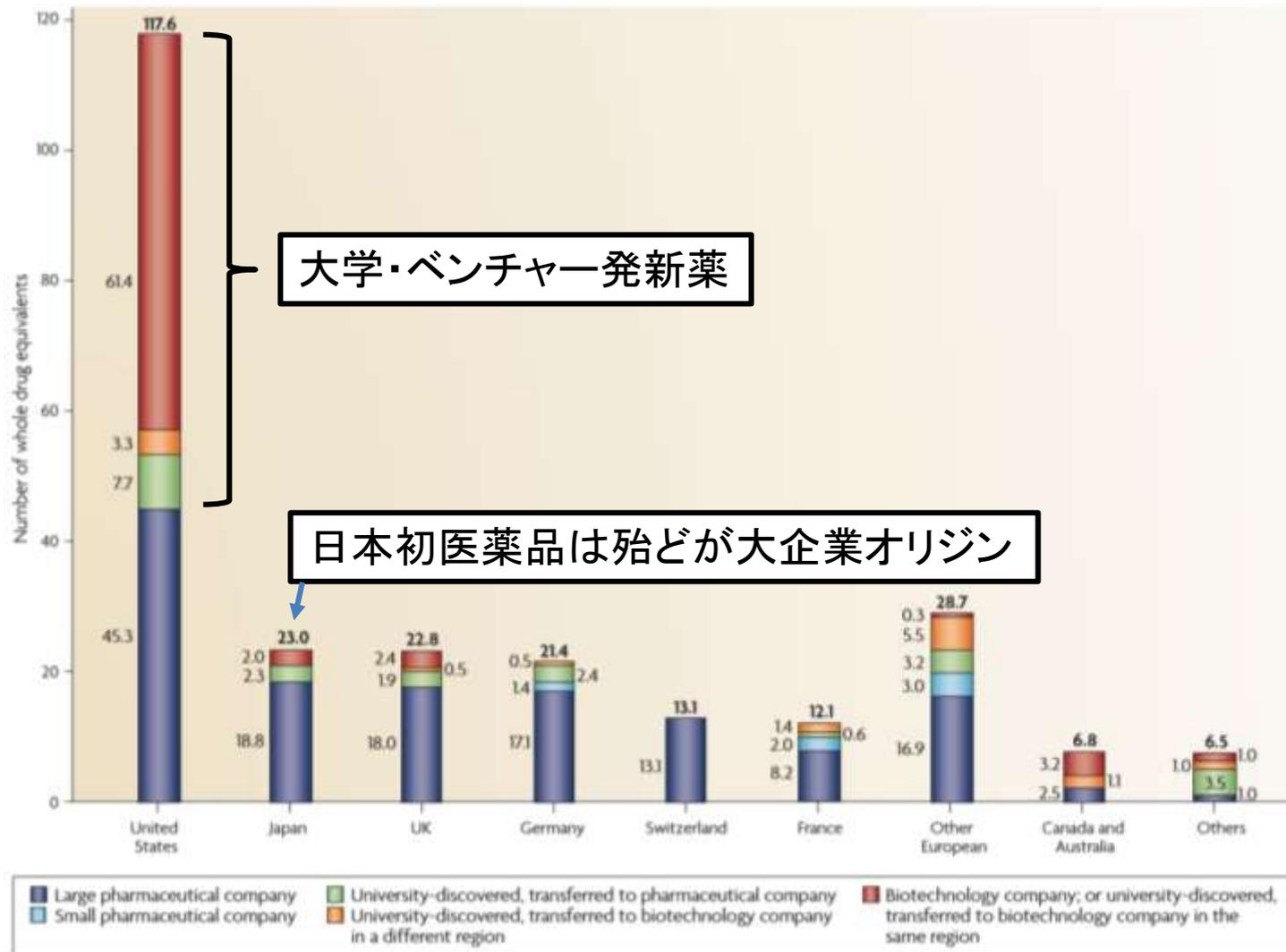
東京大学のトランスレーショナル・リサーチ ビフォー&アフター物語

アカデミア発医療イノベーションの新しい進め方

@第5回東京大学トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ
シンポジウム

特任教授 加藤 益弘
平成27年1月19日

新薬の約6割は大学・バイオベンチャーオリジン



東京大学の取り組み

- トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ
(TR機構)を活性化し成果を出す組織へと変革する
 - TR機構は学部横断的組織（総長総括室）
 - 東京大学のTRを一元的に統括
- 基本方針
 1. 大学自らが改革を行い、“死の谷”を埋める
 2. 大学の先進的研究にTRに必要な戦略をインプット
 3. 大学と企業双方に取ってメリットをもたらす
 4. 大学が一体化し、具体的成果をだす

東京大学TR機構のアンビション

- 東京大学をTRのメッカとする
 - 東大の研究能力を最大限引き出し、研究成果を実用化へとつなぐ
 - 企業の求めるものを探し、提供し、共に創りだす
 - 世界のTRのモデルとなる仕組み・システムを構築する
 - 政府、企業、アカデミア間のコラボレーションを進め日本の医療イノベーション推進に貢献する

ビフォー & アフター: ビフォー編

- 東大研究者の抱えている問題
 - TRしたいがどうしたら良いか分からない
 - 全てを自分がするのは大変
 - TRの為の試験をするお金も余裕も専門性もない
 - 企業に是非紹介したいがコネがない
 - 果たして自分の方向性で企業が興味を持ってくれるか？
 - 企業との契約やその交渉を誰がしてくれるの？
 - 外資系は怖い、国内企業は興味を示さない
 - そもそもTRに興味がない
 - ベンチャー始めたいけれど、どうしたら良い？
 - 他の研究者とコラボしたいけれど、どう探したら良いか分からない

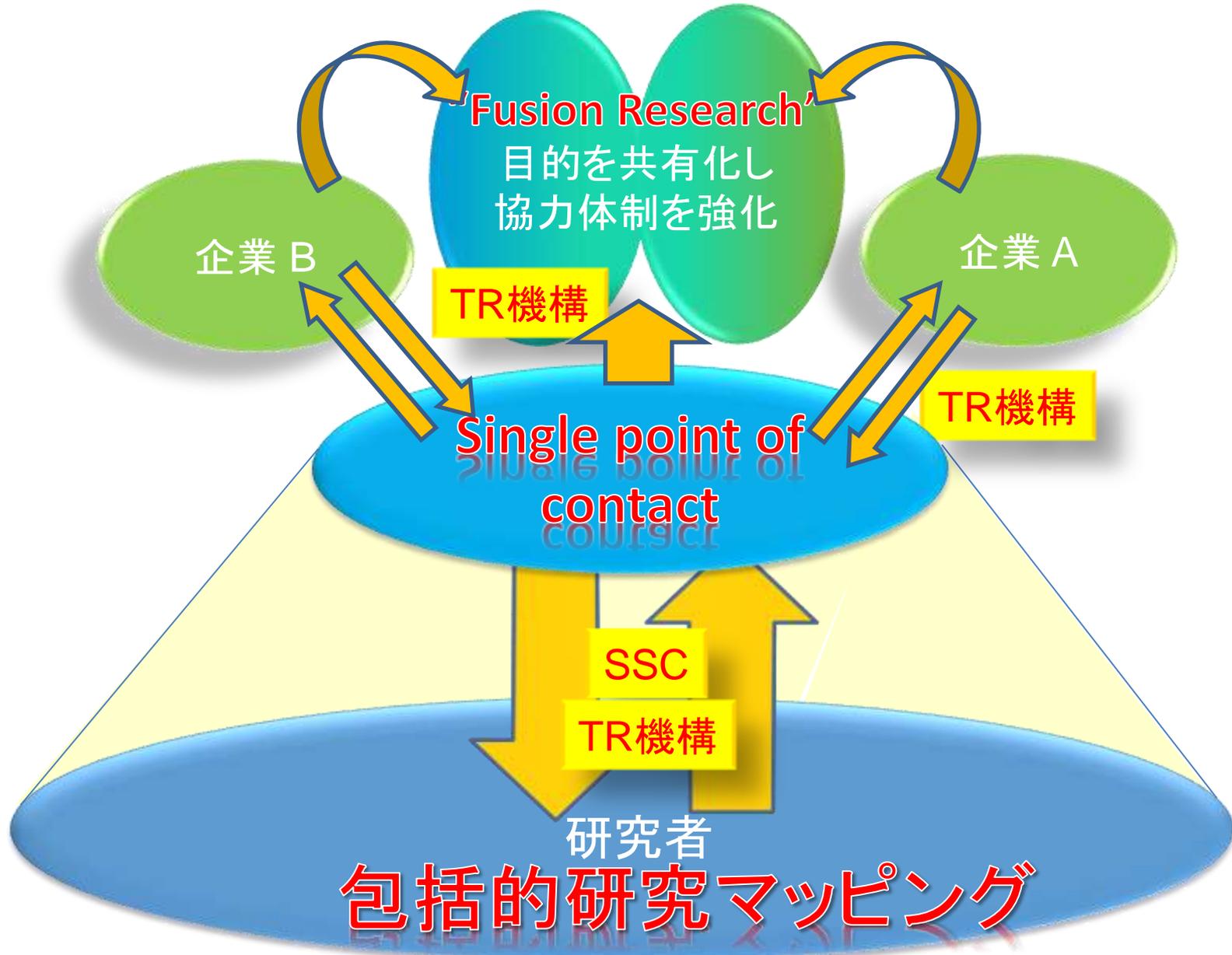
ビフォー & アフター: ビフォー編

- 企業の抱えている問題
 - 東大は敷居が高い
 - どこに行けば良いか分からない
 - どんな先生がどんな仕事をされているのか分からない
 - 先生が企業とのコラボに興味があるか分からない
 - アカデミアの成果はそのままではとても使えない
 - 海外の大学と連携した方が成果がでる
 - 個々の先生との交渉は時間がかかる
 - 先生たちとの創薬研究の認識ギャップが大きすぎる
 - 面と向かって言えないことがある
 - 先生たちと権利関係の議論が大変！

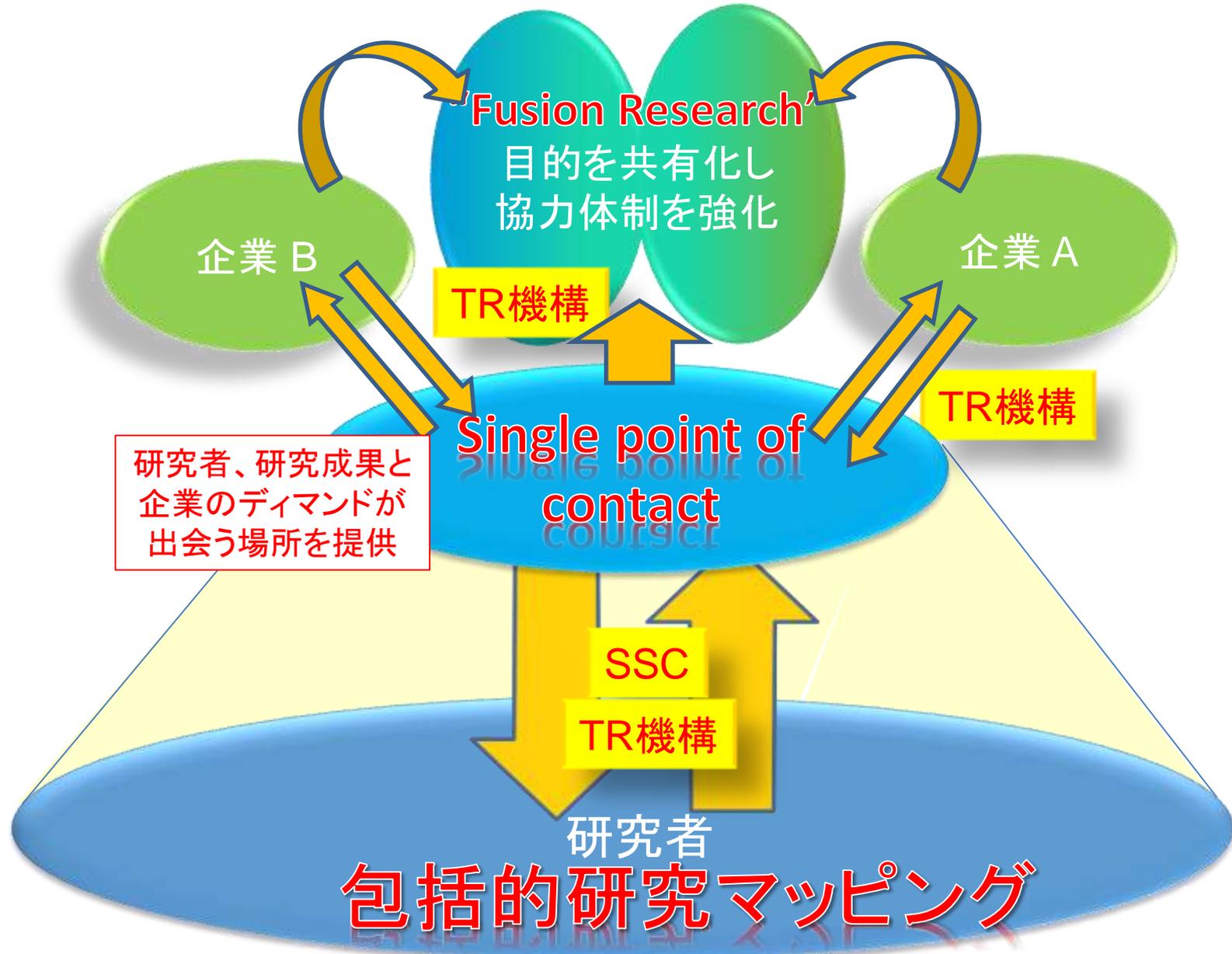
問題解決の方法

- 東大研究者の抱える問題点の解決
 - TRに関する啓発
 - 研究者へのサポート
 - TR研究資金の確保
 - 研究者ネットワークの形成
 - 東大の研究能力の向上
- 企業の抱える問題点の解決
 - 敷居を低くする
 - 透明性を上げる
 - 企業目線の理解を促進する
 - 魅力あるプロジェクトをより多く
 - パートナーとしての価値を上げる

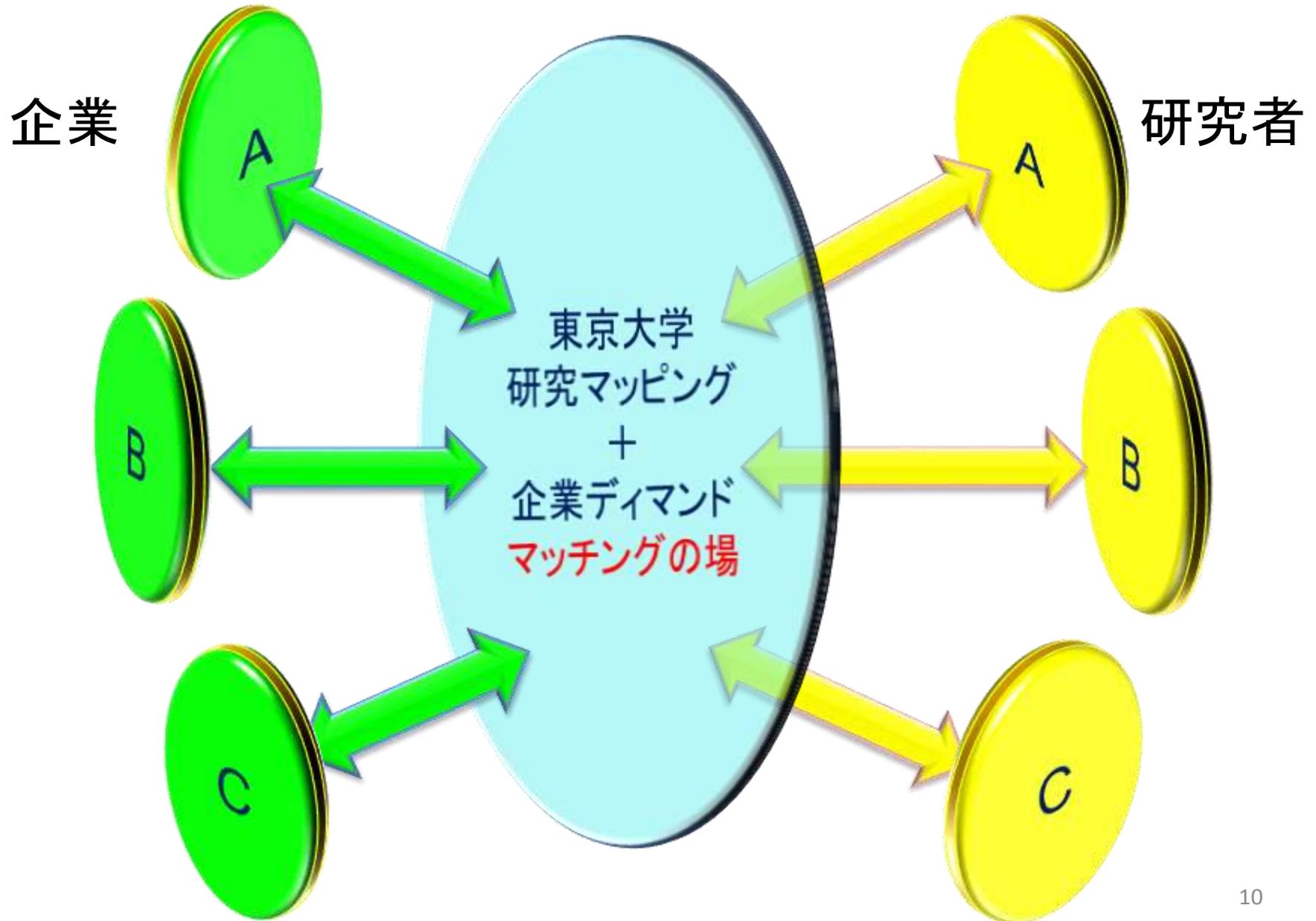
東京大学TR機構のワーキングモデル



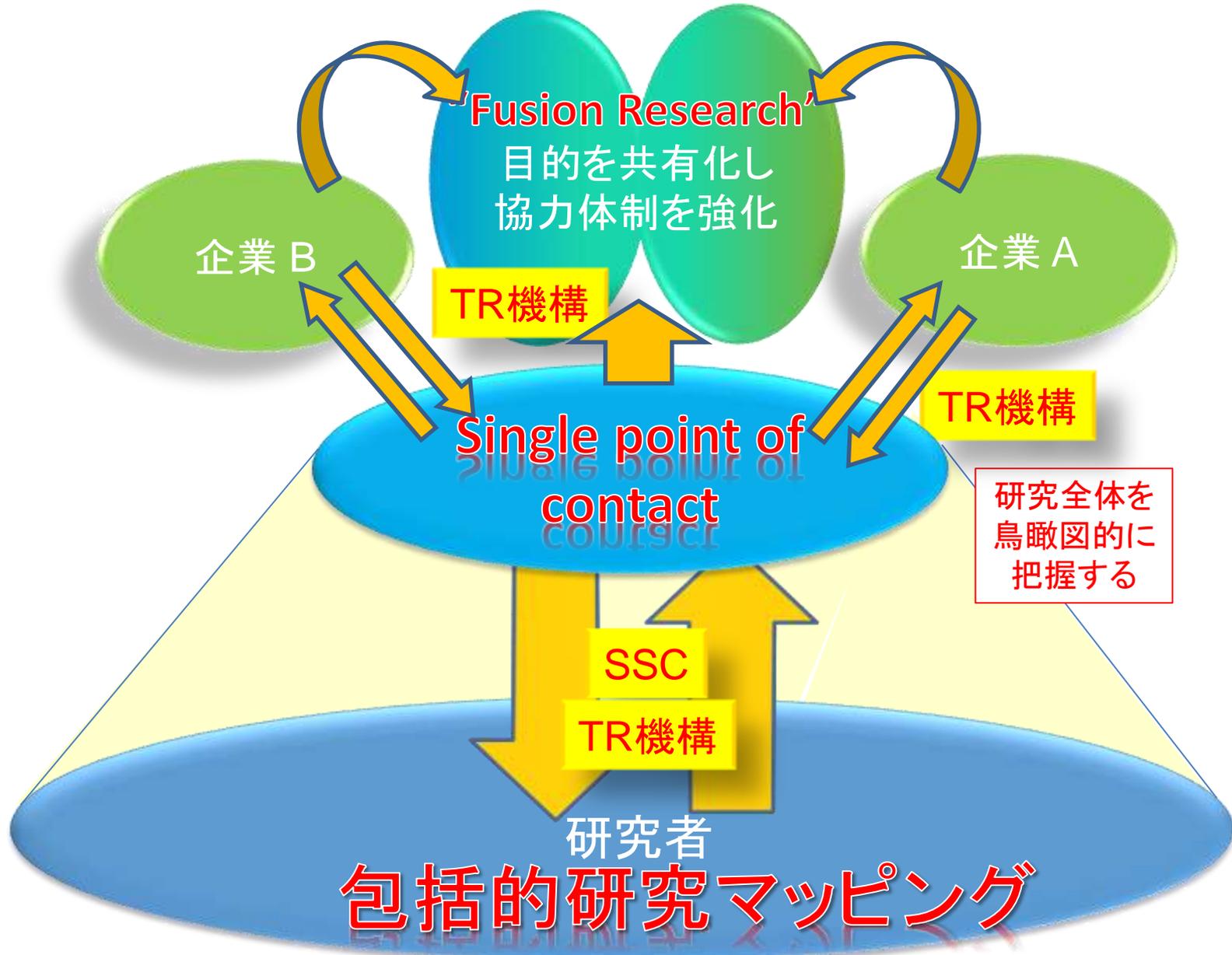
東京大学TR機構のワーキングモデル



TR機構は、Single Point of Contactとして機能します



東京大学TR機構のワーキングモデル



東京大学 TR 機構 Single Point of Contact

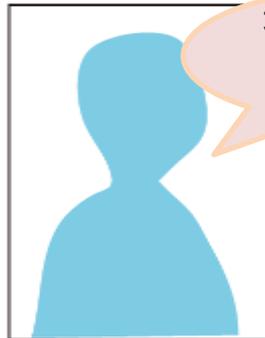
Home > Single Point of Contact

非公開

研究者名

よみがな

FIRST NAME, Last name



先生が自由に貼ることが可能にする

プロフィール入力より

Elsevier Scival Experts

東大 UCR

クリックするとシーズのページ(確認票を含む)へ

TR機構の独自情報
インタビュー情報などを
入力、添付できる

専門分野

所属(研究室・講座名)

ポジション(職名)

ホームページURL

シーズ1 名称(Q1の回答)

シーズ2 名称(Q1の回答)

⋮

プロフィール入力より

内線番号、電話、Fax、
メールアドレス(非公開)
研究費(非公開)

東京大学 TR 機構

共同研究者最大
5名まで(アン
ケート記入の最
初部分より)

Contact

Home > Single Point of Contact

研究者名

FIRST NAME, Last name



専門分野
所属(研究室・講座
名)
ポジション(職名)
ホームページURL

研究者名

FIRST NAME, Last name



専門分野
所属(研究室・講座
名)
ポジション(職名)
ホームページURL

研究者名

FIRST NAME, Last name

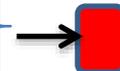


専門分野
所属(研究室・講
座名)
ポジション(職名)
ホームページURL

アンケート
で回答され
たもののみ
表出

シーズ1 確認票

タイトル
ニーズ
革新性
疾患分野



変更可

⋮

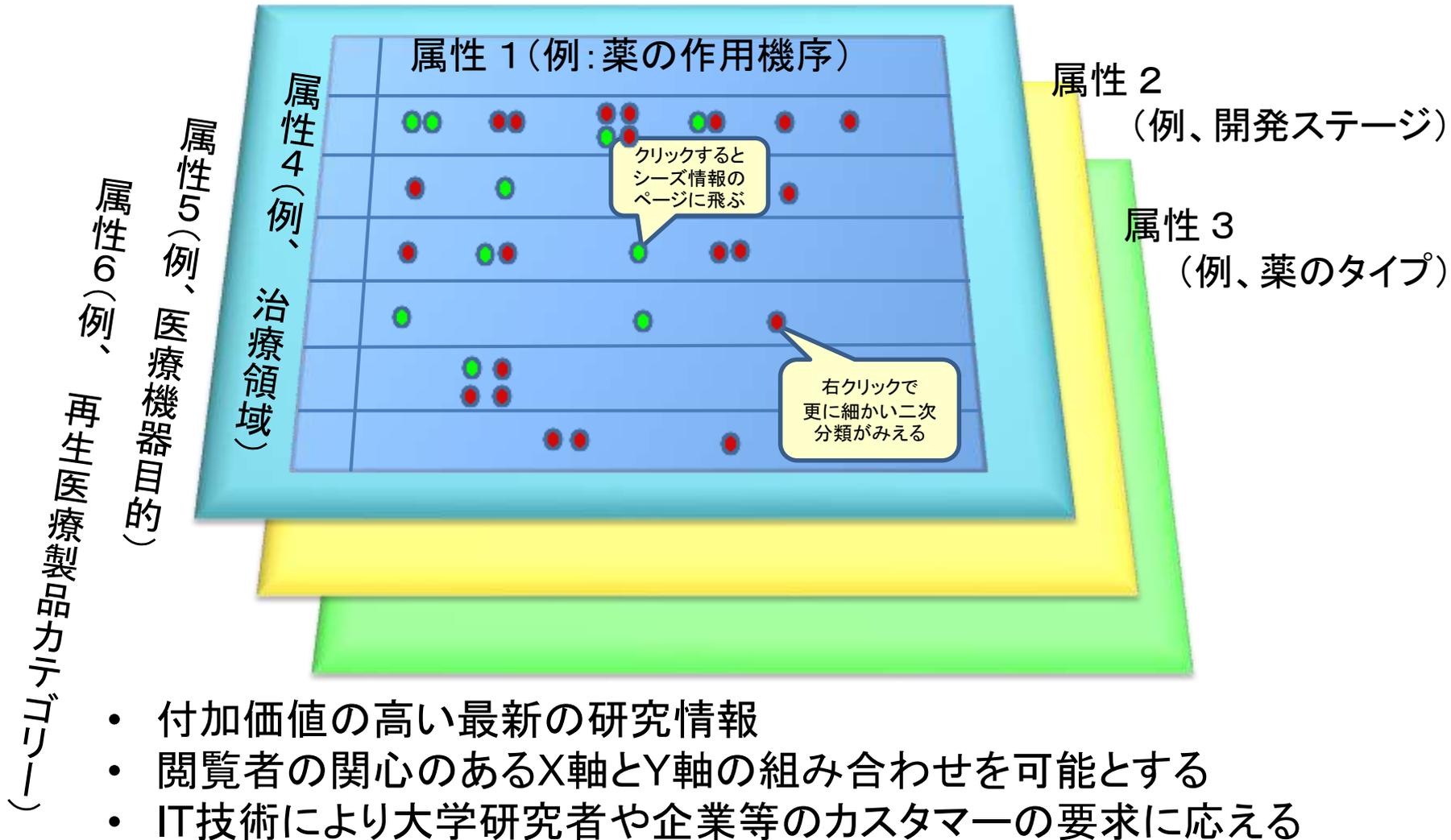
共同研究状況
実用化必要要件
TR機構サポートリスト



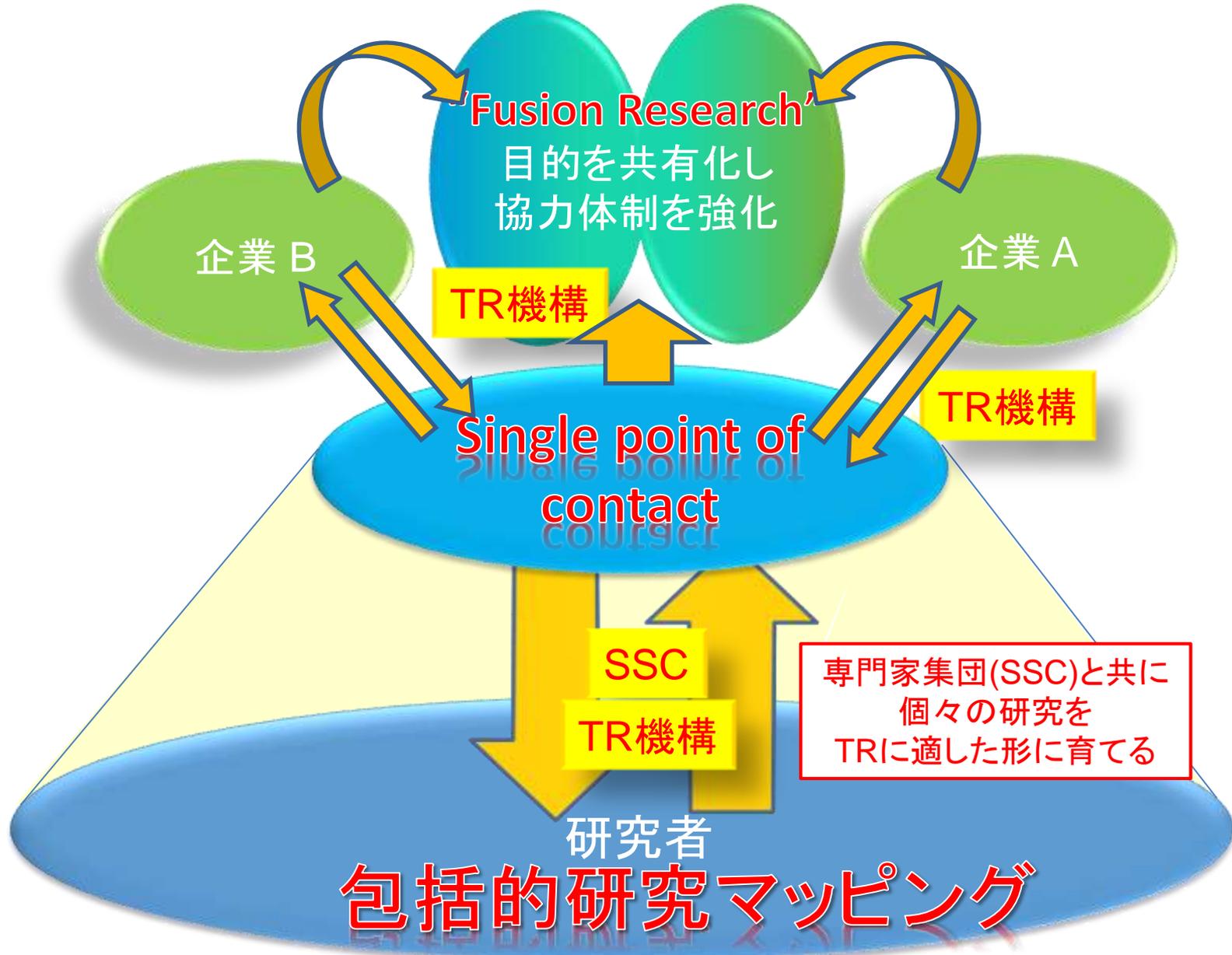
非公開

基本的には公開(■)、非公開(■)を推奨しますが、研究者のご希望により変更可能です。

包括的研究マッピングは学内外から容易に目指す研究を探し出せる機能を有する



東京大学TR機構のワーキングモデル



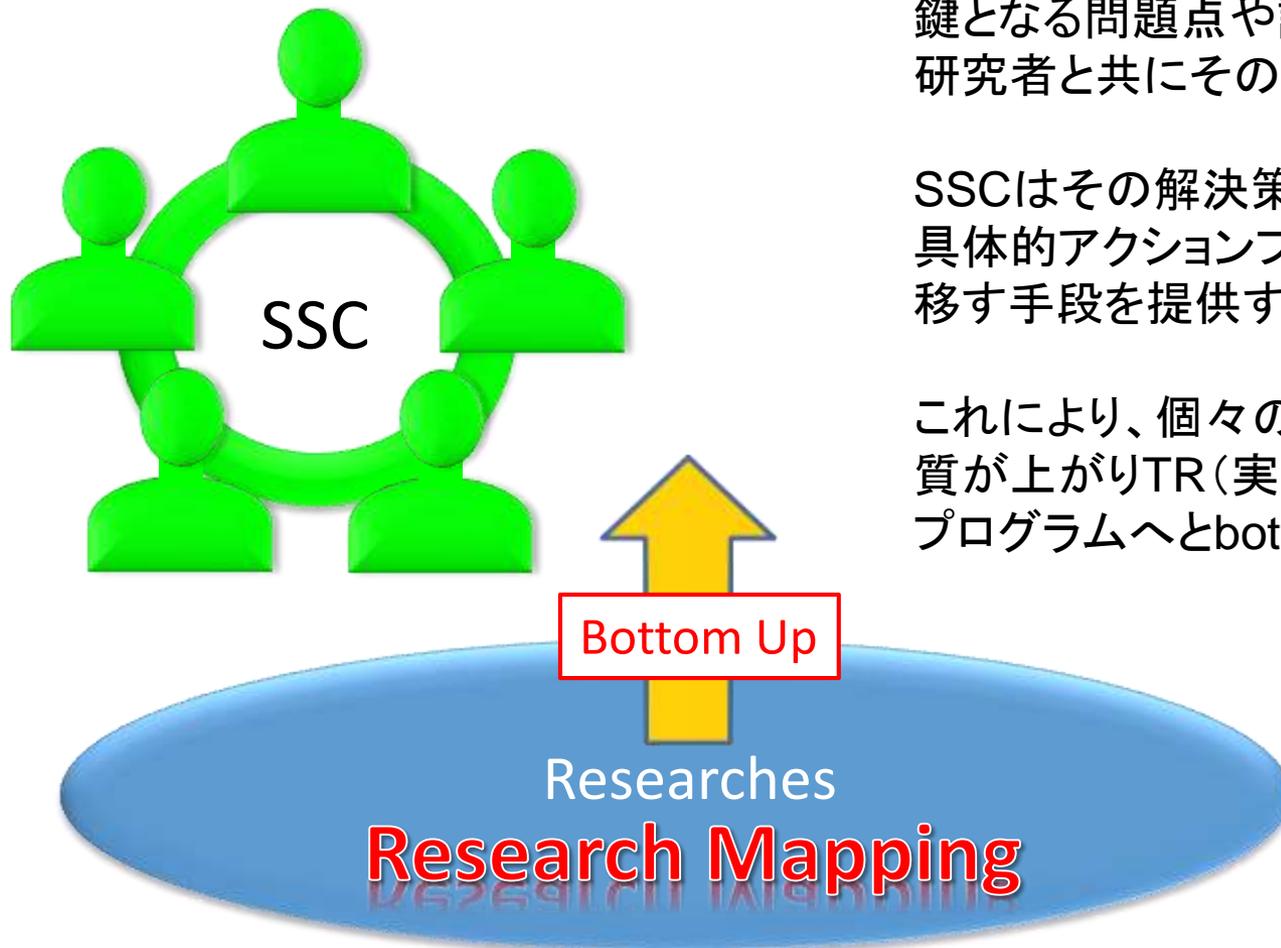
Steering & Science Committee



Steering & Science Committee (SSC)

- 企業出身スペシャリスト&ジェネラリスト
 - 創薬研究
 - 臨床開発(日米欧)、同システム開発
 - 医療機器研究・開発
 - 薬事
 - 知財
 - ライセンス
 - 研究開発、企業マネジメント
- 医師
- レギュラトリーサイエンススペシャリスト
 - 医薬品および医療機器分野
- 産学連携本部
- ベンチャーキャピタリスト
- コンサルタント(理系、医師&MBA)
- 医療分野弁理士
- 国際弁護士

Steering & Science Committee

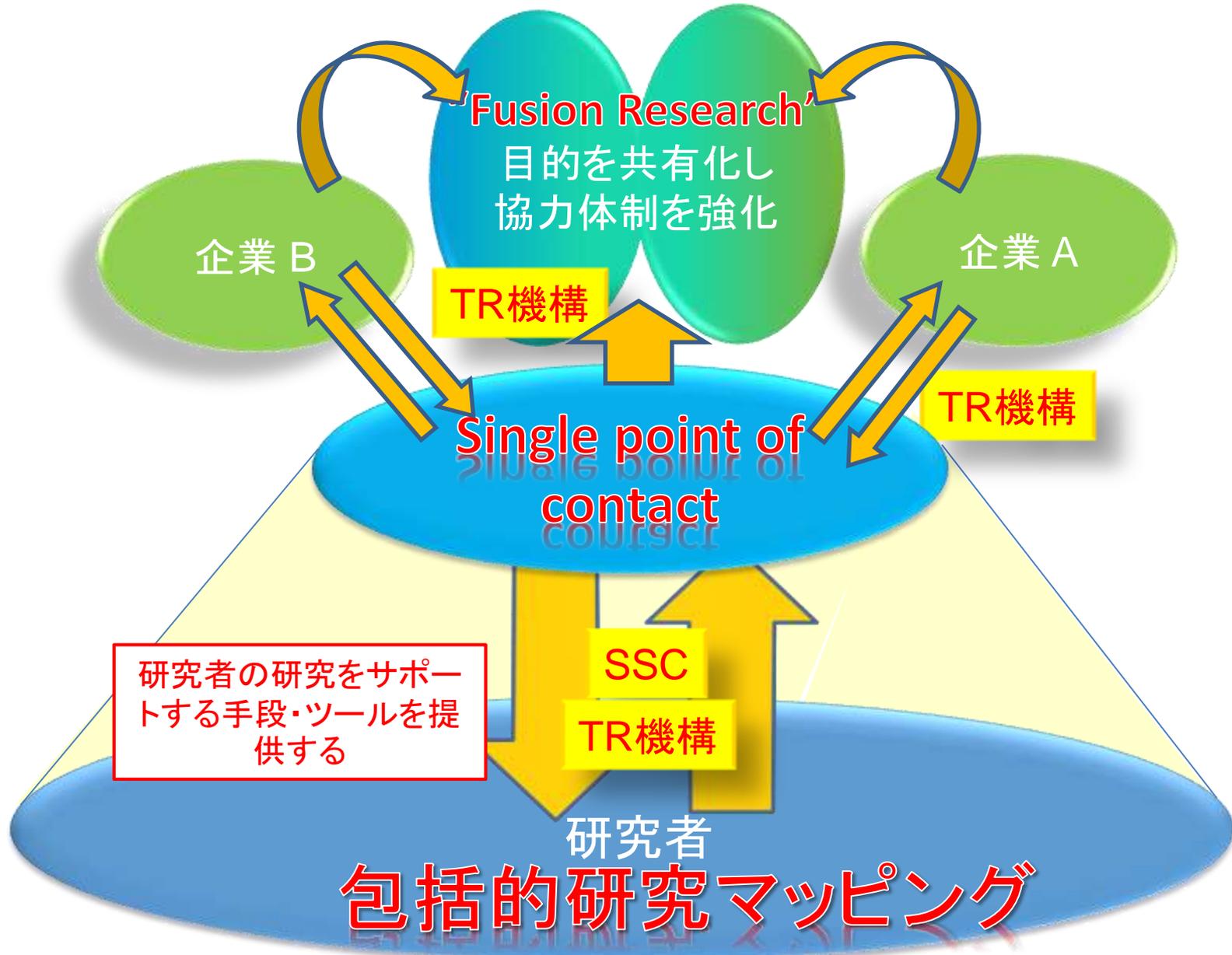


SSCは個々の研究プログラムに対して
鍵となる問題点や課題を掘り起し
研究者と共にその解決策を見いだす

SSCはその解決策を実行に移すため
具体的アクションプランを作り、実行に
移す手段を提供する

これにより、個々の研究プログラムの
質が上がりTR(実用化)に耐えうる
プログラムへとbottom up される

東京大学TR機構のワーキングモデル

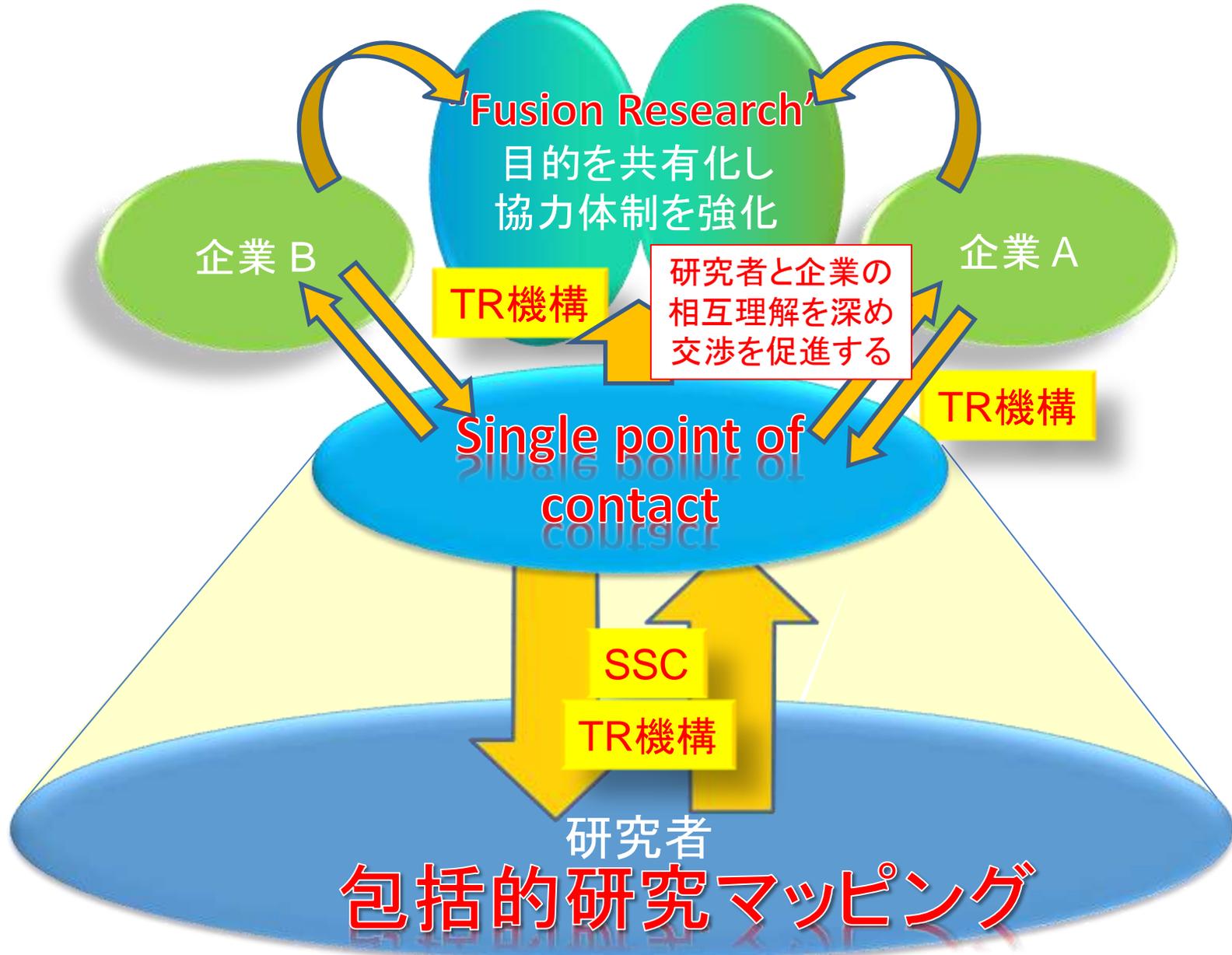


研究者のサポート

- 研究者が必要とするツールを揃え提供する
TRに必要な追加的研究や試験の実施へ向けて
 - 創薬支援ネットワークやMedical Research Council (MRC) Technology等とのコラボレーションを促進
 - 学内の先生同士を繋げて相互補完的協働関係をつくる
 - 企業の研究グラント等を積極的に紹介する
 - 世界最先端技術を有したり、コストパフォーマンスが高かったりするCRO等の紹介

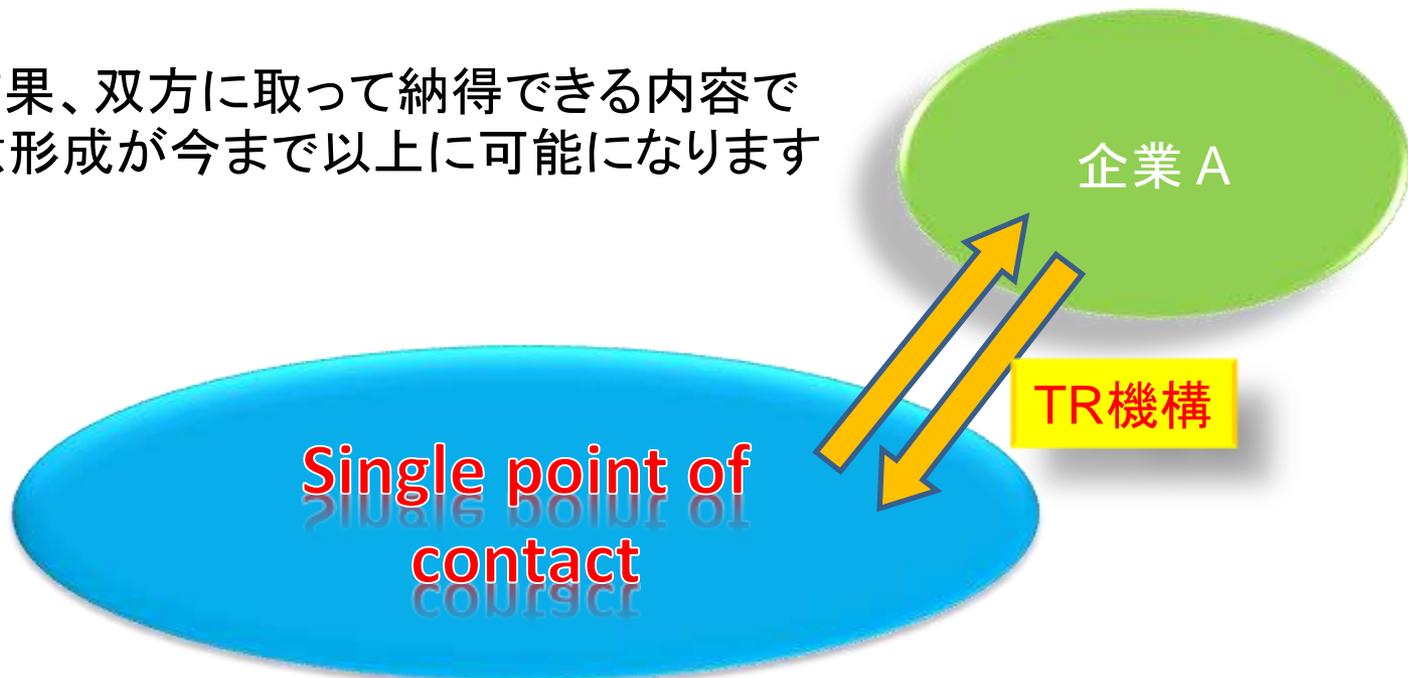
東京大学に最先端の研究技術や手段を結集し、研究の加速、質の向上を図る

東京大学TR機構のワーキングモデル



TR機構は、企業と研究者の間に立って コミュニケーションや交渉を促進します

- TR機構は双方の立場を理解して意思疎通、相互理解を得らるようサポートします
- その結果、双方にとって納得できる内容での合意形成が今まで以上に可能になります



TR機構は企業と研究者の真に融合した協力関係、共同研究の形成を目指します



TR機構は、企業と研究者の共通のゴールを見いだし共有化する事に力を注ぎます。

それにより、双方が完全にコミットした形での融合研究と言えるような共同研究体制を作り上げることが可能になります。

製薬企業との提携例



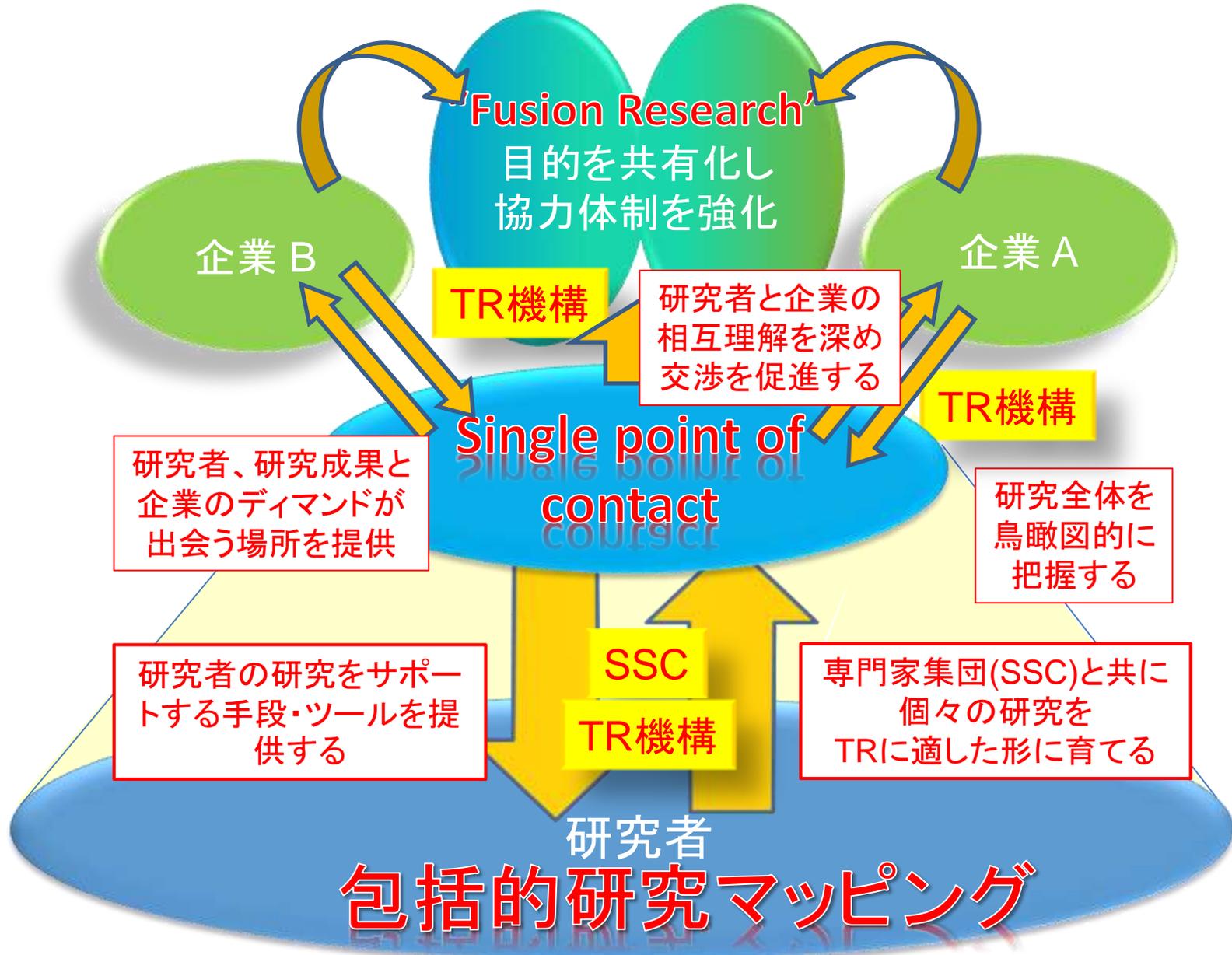
報道関係各位

2014年10月24日

東京大学
ファイザー株式会社

東京大学と米ファイザー社
創薬共同研究における戦略的パートナーシップ契約を締結
～産学連携によるさらなるオープンイノベーションを推進～

東京大学TR機構のワーキングモデル



ビフォー & アフター: アフター編

- 東大研究者

- TRに関してはまずTR機構に相談する
- 企業目線、規制当局目線でのアドバイスが得られる
- TRを進める方向性がより明確になる
- TRを進める上で必要なツールやサポートが得られる
- 企業とのマッチングが効率よく進み、ベストパートナーを選べる
- 企業との交渉も任せられるので、研究への影響が少ない
- 企業へのライセンスで研究資金が潤沢になり研究の幅が広がる
- 自分の成果を用いて起業できそう
- TRを通じて研究成果が社会に貢献できる

ビフォー & アフター: アフター編

- 企業

- TR機構に話せば先生へのアクセスが容易になる
- 東大の研究の全体像が把握できる
- 探している領域やテーマの研究者が見つかり易い
- 研究内容が企業の求めるものに近づいてきている
- より早い段階での新規テーマが掘り起こされるため、創薬で他社より優位にたてる
- 状況に応じて様々なタイプのコラボレーションが可能なので、大変助かる
- 企業の注文もTR機構へは気兼ね無しに話せるので交渉が早く進む
- 外資系も国内企業も同等に扱うので、内容の勝負となり公平性が感じられる

まとめ

- 東京大学は新しいトランスレーショナルリサーチ推進のシステムを構築した
 - 企業とアカデミア(研究者)双方が利益を享受できる
 - 企業とアカデミアとのコラボレーションが効率的にかつ有意義に進められる
 - アカデミア発のアイデアを育成し付加価値を高める
- 東京大学は、常に世界最先端の研究能力を構築することを目指している。これは東大全体のTR促進に対しても大きな力となる
- 東京大学は、全てのステークホルダーとの緊密な協力を進め、医療イノベーションの促進に貢献して行く